令和 元 年度事業 事後評価・決算

# 事務事業マネジメントシート

令和 2 年 6 月 1 日作成

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 食の幸発信施設整備事業 | 所属部 | 産業観光部 | 所属課 | 商工振興課 |
| 総合計画体系 政策名 | 〈Ⅴ〉挑戦し活力を産みだすまち≪産業≫ | 所属G | 地域産業支援G | 課長名 | 森山 幸雄 |
| 施策名 | 〈33〉地域資源を活かした産業の創出 | 担当者名 | 加藤雄二 | 電話番号 | 0854-40-1052 |
| 目的 対象 | 商工業事業所(者) | 意図 | 新分野進出、新商品開発をする。 | (内線) | 2442 |
| 基本事業名 | 〈096〉新商品の販路開拓支援 | 予算科目 | 会計 款 大事業 | 大事業名 | 食の幸発信推進事業 |
| 目的 対象 | 市内の事業所(者) | 意図 | 新商品を販売する。 | | 0 1 3 5 1 6 |
| | | | 項 目 中事業 | 中事業名 | 食の幸発信施設整備事業 |
| | | | 0 5 1 0 0 2 | | |

## 1 現状把握【DO】

### (1)事業概要

① 事業期間

- ☐ 単年度のみ
- ☐ 単年度繰返 ( 年度～ )
- ☑ 期間限定複数年度 ( R1 年度～ R5 年度 )

② 事業内容
(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

〇雲南市の農業振興、食関連産業の強化、交流人口の拡大を目指して拠点施設を整備する。
〇場所は木次道の駅の北側の空き地を予定し、既存の道の駅と合わせてその機能を発揮できるよう整備する。
〇拠点施設、トイレ棟、園芸ハウス、駐車場、アクセス道路を整備する。

### (2)事務事業の手段・指標

手段

① 主な活動

| R元年度実績(R元年度に行った主な活動) | R2年度計画(R2年度に計画する主な活動) |
|---|---|
| 〇造成設計、測量業務の発注<br>〇建築基本設計の発注 | 〇用地測量の発注<br>⇒用地買収<br>〇建築実施設計の発注<br>⇒建築確認申請、適合性判定等<br>〇地盤調査の発注<br>〇土地評価業務の発注<br>〇許認可業務資料作成業務の発注<br>⇒事業認定申請、開発行為申請 |

| | ② 活動指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 建築基本設計 | 件 | | | 1 | |
| イ | 建築実施設計 | 件 | | | | 1 |
| ウ | 用地買収 | ha | | | | 1 |
| エ | 工事 | 件 | | | | |

### (3)事務事業の目的・指標

目的

① 対象(誰、何を対象にしているのか)

市民
施設利用者

② 意図(対象がどのような状態になるのか)

雲南市の食をPRするとともに販売する施設を整備する

| | ③ 対象指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 人口 | 人 | 37,794 | 37,012 | 36,248 | 37,004 |
| イ | 観光入込客数 | 千人 | 1,389 | 1,297 | 1,457 | 1,360 |
| ウ | | | | | | |

| | ④ 成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 事業進捗率 | % | | 2 | 13 | 34 |
| イ | | | | | | |
| ウ | | | | | | |

### (4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (1年度決算)

委託料 22,055千円
〇建築基本設計 6, 226千円
〇造成測量設計 15,829千円
財源:過疎債

| | | ② コストの推移 | 単位 | H29年度(決算) | H30年度(決算) | R元年度(決算) | R2年度(計画) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 財源内訳 | 国庫支出金 | 千円 | | | | |
| | | 県支出金 | 千円 | | | | |
| | | 地方債 | 千円 | | | 15,800 | 102,400 |
| | | その他 | 千円 | | | 4,000 | 4,600 |
| | | 一般財源 | 千円 | 0 | 0 | 2,255 | |
| | | 事業費計 (A) | 千円 | | | 22,055 | 107,000 |
| 人件費 | | 正規職員従事人数 | 人 | 0 | 0 | 1 | |
| | | 延べ業務時間 | 時間 | 150 | 150 | 150 | |
| | | 人件費計 (B) | 千円 | 612 | 650 | 636 | |
| | | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 612 | 650 | 22,691 | |

### (5)事務事業の環境変化、住民意見等

| ① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?) | ② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) | ③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?) |
|---|---|---|
| 〇産直事業の全国的なトレンドとして店舗面積が増え、多様な機能が付帯するようになっている。一方で関西での販売は堅調だが、市内産直市の販売額の減少が著しい。<br>〇市内にドラックストアなど大手小売店が多く進出してきた。そこでは市内メーカーの商品の販売が難しい。 | 〇H30年度に事業予定者を選定し、その後、事業を運営する視点でハード整備を含めた計画づくりに参画している。このことによって精度の高い施設になると想定している。 | 〇地元に売れる産直売場が欲しいとの意見がある。一方で既存の売場の売上が低迷しているため、その存続を侵すものにならないかとの懸念。<br>〇イチゴ狩りや尺の内農園をはじめとした隣接エリアとの連携により、体験交流ゾーンとして期待する意見がある。 |

| 事務事業名 | 食の幸発信施設整備事業 | 所属部 | 産業観光部 | 所属課 | 商工振興課 |
|---|---|---|---|---|---|

2　事後評価【SEE】

**A 目的妥当性**

① 政策体系との整合性　この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？　意図することが結びついているか？

- ☐ 見直し余地がある
- ☑ 結びついている

＊余地がある場合⇒

② 公共関与の妥当性　なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？

- ☐ 見直し余地がある
- ☑ 妥当である

＊余地がある場合⇒

③ 対象・意図の妥当性　対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？

- ☐ 見直し余地がある
- ☑ 適切である

＊余地がある場合⇒

見直し余地があるとする理由

**B 有効性**

④ 成果の向上余地　成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？

- ☐ 向上余地がある
- ☑ 向上余地がない

理由：計画がより良くなるよう関係者との連携を深め、計画の具体化に努める。

⑤ 廃止・休止の成果への影響　この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？

- ☐ 影響無
- ☑ 影響有

理由：参画事業者はオープンに向けて人材を含めた準備をすすめており、中止となれば、参画事業者の経営に大きな影響がでる。
産直事業における農産物販売額の減少傾向が更に進む。

⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性　目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？

- ☐ 他に手段がある　＊ある場合⇒（具体的な手段や類似事業名）
  - ☐ 統廃合・連携ができる
  - ☐ 統廃合・連携ができない
- ☑ 他に手段がない

理由：具体的な施設に関する実施設計等の委託業務なので、他に変えられない。

**C 効率性**

⑦ 事業費の削減余地　成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）

- ☑ 削減余地がある
- ☐ 削減余地がない

理由：建築費の削減は難しいが、工事の手法等を検討し、縮減に努める

⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地　成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？

- ☐ 削減余地がある
- ☑ 削減余地がない

理由：必要最低限の人員及び業務時間で業務を行っているので、人件費の削減余地はない。

**D 公平性**

⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地　事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？　受益者負担が公平・公正か？

- ☐ 見直し余地がある
- ☑ 公平・公正である

理由：より多くの市民等への支援になるよう計画内容を吟味していく

**評価の総括**

① 1次評価者としての評価結果

| | | |
|---|---|---|
| A 目的妥当性 | ☑ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| B 有効性 | ☐ 適切 | ☑ 見直し余地あり |
| C 効率性 | ☐ 適切 | ☑ 見直し余地あり |
| D 公平性 | ☑ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

② 1次評価結果の総括（根拠と理由）

検討時間は非常にかかっているが目的については一貫している。近年、建築コストが大きく上昇しているが、その中で可能な限りコストが上がらないよう、事業を工夫する。本事業は多くの農家の所得向上や、市内食品製造事業者の売上向上に資するものである。

3　今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

- ☐ 廃止
- ☐ 休止
- ☐ 目的再設定
- ☐ 事業統廃合・連携
- ☑ 事業のやり方改善（有効性改善）
- ☐ 事業のやり方改善（効率性改善）
- ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）
- ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

本年は建築実施設計等を行い、非常に時間のかかる申請手続きも実施する。6月補正での予算化であり、時間がないところであるので、手戻りなく効率的にすすめていきたい。また、令和4年度の竣工、オープンも見えてきたので市民の皆様に期待いただける施設になるよう情報発信も積極的に実施していく。

② 改革・改善による期待成果

| 成果＼コスト | 削減 | 維持 | 増加 |
|---|---|---|---|
| 向上 | | | |
| 維持 | | ● | × |
| 低下 | | × | × |

廃止・休止の場合は記入不要。
コストが増加（新たに費やし）で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。